

1 ヒプロメロース

2 純度試験の項を次のように改める。

3 ◆純度試験 重金属 本品1.0 gを100 mLのケルダールフラス
4 コにとり、硝酸／硫酸混液(5：4)を試料が十分に潤うまで加
5 えて穏やかに加熱する。この操作を硝酸／硫酸混液(5：4) 18
6 mLを使用するまで繰り返す。液が黒色に変化するまで穏や
7 かに煮沸する。冷後、硝酸2 mLを加え、液が黒色に変化す
8 るまで加熱する。この操作を繰り返し、液が黒色に変化しな
9 くなった後、濃い白煙を生じるまで強く加熱する。冷後、水
10 5 mLを加え、濃い白煙を生じるまで穏やかに煮沸し、更に
11 液量が2～3 mLになるまで加熱する。冷後、水5 mLを加え
12 たとき、液がなお黄色を呈するときは、過酸化水素(30) 1
13 mLを加え、液量が2～3 mLになるまで加熱する。冷後、水
14 2～3 mLを加えて希釈した液をネスラー管に入れ、水を加え
15 て25 mLとし、検液とする。別に鉛標準液2.0 mLを100 mL
16 のケルダールフラスコに入れ、硝酸／硫酸混液(5：4) 18
17 mLを加え、更に検液の調製に用いた同量の硝酸を加え、濃
18 い白煙を生じるまで加熱する。冷後、水10 mLを加え、検液
19 の調製に過酸化水素(30)を用いた場合には、その同量を加え、
20 以下、検液の調製と同様に操作し、比較液とする。検液及び
21 比較液にアンモニア水(28)を加え、液のpHを3.0～4.0に調整
22 し、水を加えて40 mLとする。更にそれぞれチオアセトアミ
23 ド・グリセリン塩基性試液1.2 mL、pH 3.5の酢酸塩緩衝液2
24 mL及び水を加えて50 mLとし、5分間放置した後、両管を
25 白色の背景を用い、上方から観察して液の色を比較する。検
26 液の呈する色は、比較液の呈する色より濃くない(20 ppm以
27 下)。◆

28

29